



鎌で稲を刈り取る児童

1粒1粒の「いのち」を大切に収穫

■稲刈り／地頭方小

地頭方小学校5年生29人は9月9日、同校近くの学校田で、地元のボランティア団体「末広会」の会員25人の指導のもと、稲刈りを行いました。

稲作体験学習「田んぼの学校」の一環で、児童たちは、塩水で良質な種もみを選ぶ4月の「塩水選」から約4ヶ月半にわたり丹精込めて育てた、黄金色の稲穂を収穫。鎌の扱いに苦戦しながらも、自分で収穫する大変さや喜びを体感しました。

11月末には餅つきが行われ、稲わらは正月飾りの作成に使用する予定です。

磨き抜かれた「心・技・体」を競う

■第34回静岡県消防操法大会

第34回静岡県消防操法大会が9月8日、県消防学校（静岡市清水区）で開かれ、昨年秋の支部大会で優勝した、第9分団（大沢・菅山区）と第11分団（萩間地区）が榛原支部代表として、「ポンプ車操法の部」に出場しました。

多くの仲間が見つめる中、選手は、抜群のチームワークで操法を披露し、日ごろの練習の成果を發揮しました。惜しくも入賞はありませんでしたが、4番員の鈴木拓也選手が同番員の最優秀者賞を受賞しました。



標的の火点に向かって放水する第9・11分団の選手

さらなる飛躍を願って

■榛原里やまの会石雲院展望広場売店名お披露目会

NPO法人「榛原里やまの会」が富士山静岡空港石雲院展望広場で運営する売店の名称が決定し、9月22日に同所でお披露目されました。

店の名前は「飛翔軒」。富士山静岡空港や当地域、同会がこれまで以上に飛躍するようにと、石雲院の住職が命名。看板は自然木に住職が書いたもので、売店の上部に取り付けられ、売店では地域の農産物や工芸品、弁当などが販売されています。

当日は、空港で「空の日」（9月20日）記念イベントも開催され、大勢の来場者で賑わいました。



「飛翔軒」という名前が付けられた榛原里やまの会の売店



大粒の「小さな秋」を収穫

■クリ拾い／菅山保育園

菅山保育園の5歳児13人は9月12日、相良油田観光くり園でクリ拾いをしました。

14日の開園を前に、地元の園児らに楽しんでもらうために行われたもの。広さ約1.5haの園内には、約500本のクリの木が植えられています。

地面に落ちた光沢のある茶色い実を見つけると、園児たちは歓声を上げて、イガに気を付けながら中から大粒の実を取り出し、次々と袋の中に拾い集めました。園に帰り、収穫したクリを食べて、秋の味覚を存分に堪能しました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。

あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎052 2300052 E-mail: seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



より地域に身近な病院として

■榛原総合病院祭「お茶の子彩祭」

榛原総合病院祭「榛原お茶の子彩祭」が9月15日に同院で開催され、家族連れなど多くの人が賑わいました。

同院の運営を行う指定管理者となり3年目を迎えた特定医療法人「沖縄徳洲会」が地域とのつながりをより深めるため、病院開院記念日（20日）に合わせて開いたもので、医師や看護師など全職員が参加しました。ステージでは、沖縄の三線奏者城間竜太氏や、はいばら太鼓の演奏、各種団体や新人看護師などによる歌や踊りなどを披露。全国の同会グループの病院が協力して行った物産展では、各地の名産品が安値で販売され、開始早々に売り切れになる商品もあるなど大盛況でした。



三線奏者の城間氏による演奏

市出身の国土交通省職員が講演

■水といのちとまちづくりフォーラム

水といのちとまちづくりフォーラムが9月7日、いへらで開かれました。

商工会建設部会が開催したもので、講演会の講師は、須々木区出身で独立行政法人水資源機構経営企画部長（前・国土交通省近畿地方整備局 河川局長）の名波義昭氏。国内の治水事業や水資源の開発で活躍し、海外の水事情にも精通した名波氏は、水と人との関わりについて説明し、紀伊半島大水害を例に、「災害時は、住民と行政が一体となり対応することが大切」と話しました。



水や自然環境、災害などについて講演する名波氏



いへら初のオーケストラに感動

■霊峰富士を讃えるコンサート in 牧之原

静岡・山梨合同音楽祭「霊峰富士を讃えるコンサート in 牧之原」が9月7日、いへらで行われました。

富士山の世界文化遺産登録を記念して、静岡・山梨両県が協力し、県内では5会場で開催されたものの富士山のイメージにちなんだ、ベートーヴェンの楽曲が曲目に選ばれました。来場者は、市の芸術文化の場として利用してきた「いへら」での初の本格的なオーケストラによる壮大な演奏に、じっくりと聴き入っていました。